

(修正箇所)

126 ページ末尾の行～127 ページ冒頭の行

(修正前)

【126 ページ末尾】

で統計表が提供される前の自動化された露見チェックに関しても、差分攻撃 (differencing) の

【127 ページ冒頭】

図1 オンデマンド型公表システムのイメージ

4.2 イギリスによる人口センサスの統計数値に対する差分プライバシーの可能性の検討

(修正後)

【126 ページ末尾】

で統計表が提供される前の自動化された露見チェックに関しても、差分攻撃 (differencing) の

【127 ページ冒頭】

図1 オンデマンド型公表システムのイメージ

リスクを想定した上で露見のチェックに関するルールが検討されてきた (Spicer(2020))。

このように、ONS は、2021 年人口センサスにおいて、過去の人口センサスでも用いてきた  
スワッピングに加えて、Eurostat 等で 検討を進めてきた cell key method を新たに採用する形  
で、オンデマンド型の統計表の作成に関する新たな可能性を提示していると言える。

4.2 イギリスによる人口センサスの統計数値に対する差分プライバシーの可能性の検討

※下線が修正部分